

今後の国際戦略推進機構について

高橋邦年（国際戦略推進機構 基盤教育部門長）

国際戦略推進機構（以下、機構）が発足して今年度で3年目である。試行錯誤の2年間であったが、そろそろアイドリング走行から普通走行にギアシフトすべき時期に入っている。学長が交代し、それに伴い機構長・副機構長も交代した。ギアシフトを可能にするには、この新体制の基で機構の今後の方針を早急に固める必要がある。とはいえ、国策や文科省の施策から外れることなく、世の中の流れや学生達の志向・意識も把握しておかねばならないとなると、そう簡単には本学の国際戦略の確固とした企画が決まるとは思えないが、今年度は正念場を迎えていると考えてよいであろう。

さて、基盤教育部門は言語教育を受け持っているので、言語教育について全学的な方針を打ち出す必要があることは当然のことである。今後増加が見込まれる留学生の日本語教育を従前にも増して効果的なものにしていくために、一体何ができるのであろうか。また、在学中に海外へ留学する学生を増加させるために、あるいは、卒業後国際的に活躍できるような学生をより多く輩出するために、英語教育や初修外国語教育では何ができるのであろうか。今年度に入り教養教育の見直しのための検討がにわかに進みはじめている。本学で「くさび形教育」という表現が使われ始めて久しいが、とりわけ英語教育と初修外国語教育においては、現状ではほとんど実体が伴っていない。とりいそぎ、現行より少しでも効率的なカリキュラムを案出したい。難題が山積しているが、一つずつ解決・改善していくしか選択肢はないであろう。（2015夏）